

平成21年度 第2回鳥取市校区審議会 議事録

- 1 日時 平成21年10月19日(月) 午後2時～午後4時
- 2 会場 鳥取市役所本庁舎 4階3会議室
- 3 出席者 【委員】
 渡部昭男委員、谷本由美子委員、前田多喜男委員、有本喜美男委員
 武安哲也委員、岩崎憲一委員、渡辺勘治郎委員、横山隆雄委員
 藤井健委員、加藤研委員
- 【アドバイザー】
 とっとり地域連携・総合研究センター 澤弘一サブディレクター
- 【教育委員会】
 橋本佳忠次長、中宇地昭人参事、神谷康弘課長補佐、橋本浩之主査
- 4 会議次第 (1) 開会
 (2) 会長あいさつ
 (3) 報告
 ①第1回会議概要
 ②中心市街地の活性化事業ほか
 (4) 議事録署名委員の選任
 (前田委員、有本委員を選任)
 (5) 議事
 ①適正規模について
 ②次回開催期日について
 ③その他
 (6) 閉会

5 議事の概要

| 発言者 | 発言内容 (要旨) |
|--------|--|
| 会長 | 今回のテーマは適正規模についてですので、忌憚のないご意見をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。 では、会議の成立について事務局よりお願いします。 |
| 事務局 | 過半数以上の委員さんが出席されていますので、審議会条例第5条第2項により、会議は成立しています。 |
| 会長 | では報告事項に移りまして、第1回会議の概要を事務局よりお願いします。 |
| 事務局 | (第1回校区審議会の概要報告・・・レジュメ3ページ) |
| 会長 | 中心市街地の活性化事業について、アドバイザーより調査結果の報告をお願いします。 |
| アドバイザー | カラー刷りの資料をご覧ください。これは平成19年度に市の都市計画課が作成した資料から抜粋したもので、鳥取市の中心市街地活性化計画の概要が載っています。 この計画では、平成24年度の中心市街地の居住人口を平成19年度と比 |

| | |
|-----|--|
| | <p>較して4パーセントの増、数値にして532人の増加を目指すという目標になっています。4パーセントの人口増といえども、実際に実施するとなると非常に大変なことだと思いますが、この中で15歳以下の小中学生やそれ以下の未就学児童にかかる影響は、多く見積もっても2～3パーセント程度だと想定されます。このためこの定住化施策が、小中学生の人口増に与える影響はそれほど大きくはなく、いふなれば誤差の範囲程度と言えるのではないかと考えます。</p> |
| 会長 | <p>今の報告に、何か質問等ありますか。無いようでしたら、後の議事のときにでもお願いします。</p> <p>次に、議事録署名委員の選任に移りますが、今回は、前田委員、有本委員さんをお願いしたいと思います。</p> |
| | <p>(「意義なし。」の声あり。)</p> |
| 会長 | <p>次に、5番目の議事に入りたいと思います。</p> <p>今日は、適正規模というテーマで議論を深めたいと思いますので、よろしくお願いします。まず、事務局より資料の説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(資料1～10ページを説明)</p> |
| 会長 | <p>資料の1ページの2の表を見ますと、鳥取市が今抱えている問題として、国の定めている標準規模より大きい学校は少なく、逆に標準規模より小さな学校が多くなっているということがあげられると思います。</p> <p>この適正規模を検討するにあたり、資料の13ページに書かれているメリット・デメリットについて皆さんのお考えを加えていただき、鳥取市版の事例集を作成し議論していくことが必要だと考えます。</p> <p>そこで、校長会にお伺いしますが、この表のイメージで学校現場が掴んでいる内容は反映されているでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>小規模校と大規模校の校長を経験していますが、私個人としては、小規模校の場合、メリットよりデメリットの方がやや厳しいのではないかと思います。</p> <p>今の時代、子どもたちの人間関係力が低下する中で、学校が力をつけていかなければならないという状況がありますが、1学年1学級では人間関係が固定化され難しいと思います。2学級以上あれば、多様な人間関係が構築され、人間関係力も高まっていくのではないかと思います。</p> <p>人数が少ないとどうしても切磋琢磨することが弱くなっていくのではないかと思いますし、子どもたちは、もまれて遅く育っていく力をつけていくことが小学校の間から必要だと感じています。そうしたことから、少なくとも1学年2学級ある方が人間関係力が培われ、いわゆる生きる力がついていくのではないかと思います。</p> <p>そういう意味から適正規模というのは、学校教育・教育環境を整える上で最重要課題の一つであると考えます。</p> |
| 委員 | <p>校長会で基本的な基準について意見を聞いたところ、①校区の事情が違うので一律には決め難い、②地域の意見や要望を十分聞いてから決めるべきで、基準は二の次でもいいのではないかという意見と、③地域の声を尊重すると他地域と衝突することもあり、始めから通学距離や規模の基準を打ち出して議論すべき、という両極端な意見がありました。</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>小規模校では一人一人に目が届きやすいとか、学力が高まる傾向があるなどのメリットがあるように感じますが、一方で、社会性が身につけにくいとか、部活動を見ていると活力がないような感じがします。生徒数が少なくなってきた、部活の整理統合の話が出ますが、統合するとなると保護者からいろいろな意見が出てきて、なかなか難しいという現状があります。</p> <p>こうしたことから基本的な基準を定めるにあたっては、教育効果とか学校運営というような大きな視点から捉えていかないと、納得していただけないのではないかと思います。</p> |
| 会長 | その他の委員さんで、意見はありませんか。 |
| 委員 | <p>小学校の保護者の立場としては、通学距離というのが問題だと思います。特に低学年の場合、今の基準だと4kmを歩けと言うことになってしまいますが、通学時間が1時間を超えるようになってしまうと大変だと感じています。</p> <p>そこで、公共交通機関を考えたことが必要になると思いますが、それだと保護者の負担がかかってしまい、そこらをどのように調整していいのか問題だと思います。</p> <p>次に地域との問題で、地域も小学校区を拠点として行っているところがほとんどですので、地域との重なりも重視して校区を再編していく必要があると考えます。</p> <p>それから今示されている1学級あたり40名という学級編成は、ちょっと大きすぎるのではないかと感じています。子どもを育てた経験上、先生方と子どもたちのコミュニケーションをとる上で、できれば中学校で30名程度、小学校では20名から30名の間で、複数学級あるのが理想だと思います。</p> <p>ただ通学距離を考えるとこのような規模にすることが難しい校区が多いでしょうから、単学級でも止むを得ないのかなと思います。</p> |
| 会長 | まずは、いろいろな意見を出していただければと思います。 |
| 委員 | <p>佐治中学校と用瀬中学校の統合について、10年くらい前に話題になりました。その当時は用瀬側が一緒になりたいという意向でしたが、一緒になっても10年後位には1クラスになって統合の意味が薄れるとか、お互いの文化が融合できるかなどの議論があり話は流れたように記憶しています。</p> <p>その後、佐治の人口減少率が高く、最近では佐治の方が積極的に統合を考えているような現状にあります。</p> <p>小規模校はデメリットが大きいということも、保護者や地域の方も感じられるようになってきているようですし、実際子どもたちの人数が減って活気もなくなっているように感じています。中学校の段階では、統合というのは早め早めに考えた方がいいのではないかと思います。</p> |
| 会長 | <p>10ページの資料を、もう一度ご覧ください。このデータにあるように、10年後の姿も想像しながら検討していく必要があると思います。</p> <p>校区によっては、住宅事情で推計値がかなり変化するかもしれないとの説明が事務局よりありましたが、そのあたりについて、委員の方で分かることがありましたらお話していただけますか。</p> |
| 委員 | この資料では若葉台小学校の減少というのが顕著に表れていますが、一時に宅地が開発されるとそこで児童生徒数が急激に増えますが、ある時期を過ぎると一気に減少していくということが言えると思います。このことは中ノ |

| | |
|-----|--|
| | <p>郷地区とか、末恒の美萩野地域などにも当てはまると思います。</p> <p>このごろ宅地開発が、いわゆるニュータウンと呼ばれる地域から撤退している傾向があるように感じており、今後は、中心市街地を中心に、的場・吉成のあたりから秋里・浜坂、岩倉・宮ノ下あたりのエリアに人口が集中していくのではないかと思います。</p> <p>それから、日進や明德小学校区などのマンションが建って人口が増加した地域についても、同じように一時的に児童数が増えて、また急激に減少していくという傾向があるのではないかと予想され、気になるところです。</p> |
| 会長 | <p>小学校については6年後までの推計値が出ていますが、それをもっと長いスパンで見れば、違った問題が出てきそうだということで、そのあたりも念頭に慎重に検討していく必要があるということだと思います。</p> <p>その他の委員さんはどうでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>地域住民にとって自治会とのつながりは一生のことであり、小学校は6年間、中学校は3年間ですが、その後は地区の中で活動することが主になると思います。</p> <p>学校を規模を基準に再編されますと、地域がばらばらになる場合があると思います。小学校区と地区というのは表裏一体ということである程度考えないと、校区再編の話を経区の方に持っていったとき、なかなかまとまらないということになると思います。</p> |
| 会長 | <p>自治会とのつながりといったファクターも勘案し、再編を考えていくべきというご意見だと伺いました。</p> <p>その他どうですか。</p> |
| 委員 | <p>大規模校のデメリットとして、一人ひとりの把握が難しくなるということがあがっていますが、加配の教職員数が増えて、かえって目が届きやすくなるというような場合もあるのではないですか。</p> |
| 委員 | <p>大規模校では、職員もたくさんいるので、多くの目で子どもたちを見守ることが出来ます。そこで、小規模校より大規模校のデメリットは少ないのではないかと考えます。また、クラス替え等で人間関係を変えていけますし、保護者や地域との連携が難しいとありますが、そんなことはなく、それなりの連携はとれると思います。</p> |
| 会長 | <p>大規模校は人的資源もあるので、工夫できる部分もあるということですね。</p> <p>委員さんどうですか。</p> |
| 委員 | <p>前回の審議会でも伺いましたが、中教審における通学距離の論議の中身は公表されていませんか。</p> |
| 会長 | <p>中教審の方は学級規模の問題を議論していると思いますので、通学距離については、今出ていないのではないのでしょうか。通学距離の問題について事務局の方で何かありますか。</p> |
| 事務局 | <p>遠距離通学の補助基準として小学校4 km、中学校6 kmという設定ができた背景としては、学校の統合を促進するという施策が展開された時期があり、その当時に特例措置として設定されたものです。</p> <p>このため学校統合がなされていない地域では適用を受けていないという問題もあり、現在、鳥取市として、適正距離に応じた支援策というものを検討しているところです。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>国の方では、通学時間として1時間程度以内になることが望ましいという ような議論があったと記憶していますが、正式なものはまだ出てきていま せん。</p> |
| 委員 | <p>小規模校のデメリットで、クラス変えができず人間関係が固定化されやす いと載っていますが、保護者に聞けば保育園・幼稚園の時代からそうである ということです。このため、10年以上人間関係が固定化されることに、危 機感を持っている保護者も多いと感じています。</p> <p>そこで通学バスが整備されて、保護者の負担があまり変わらないようであ れば、大きな規模で学ばせてやりたいという声も聞いています。</p> <p>小学校は地域に残して欲しいが、中学生になると体も大きくなり、通学距 離・時間がかかるようになって大丈夫ではないか、そう考える人が多いの ではないかと思います</p> |
| 委員 | <p>その場合小学校と中学校との接続が、非常に難しくなってくるという問題 があります。小・中学校の接続を、どうフラットにしていくかということも 考える必要があると思います。</p> |
| 会長 | <p>中1ギャップと言われる問題をどう克服するかということですね。 それから、遠距離通学費の補助については、どうなっていますか。</p> |
| 事務局 | <p>現在は、市町村合併した当時の補助要綱をそのまま適用しています。この ためバス代の全額を補助している地域もありますし、距離についても2km 過ぎでも補助している地域もあります。また、鳥取地域のように、小学生は 4km以上、中学生は6km以上を補助対象としている地域もあり、あまり にも差が大きすぎるという現状があります。</p> <p>このように合併前の補助の考え方に差がありすぎて、5年かけて検討しま しょうということが合併協定になっていたわけですが、その期限が本年度と いうことであり、来年度から全市共通の新ルールを適用しようということ で現在検討を進めています。</p> <p>現時点では、小学生は3km以上、中学生は5km以上を補助対象地域と し、小学生で月額2,430円、中学生はその倍額を距離に係らず均一に保護 者負担していただくということで検討しています。</p> <p>この前提として公共交通機関を利用させていただくことを考えていますの で、新たに通学用のスクールバスを設定して走らせるというような方向では ありません。</p> |
| 会長 | <p>新しい補助要綱ができた後でも、統合した場合は何年か特例措置しますと いうようなことはありますか。</p> |
| 事務局 | <p>現段階では、そこまで考えていません。補助要綱の枠内でということにな ろうかと思います。</p> |
| 会長 | <p>委員さんはどうですか。</p> |
| 委員 | <p>小学校というような小さい子どもの時期は、切磋琢磨も大事ですが、一方 でおおらかに人を育てることも大切だと思います。そういう意味で大規模に 集中するのもどうかと思います。</p> <p>自分の見てきた経験上からも小学校・中学校・高校・大学と順番に大きい 組織で学んで、社会に出るというのが理想的ではないかと思います。はじめ から大規模というのは抵抗がありますが、そうはいつでも小規模にも限度と いうものがあると思いますので、そういうところの統合については、検討す</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>る必要があると思います。</p> <p>ただ、小学校の時はそれほど小規模であることを心配することはないのではないかと思います。</p> |
| 会長 | <p>中1ギャップの問題が全国的にも言われていますが、中学校区の方で何か取り組んでいることがあったら教えてください。</p> |
| 委員 | <p>私たちの校区は、大規模校1校、中規模校2校、小規模校1校という編成で、小学校4校が1中学校へ行く校区です。</p> <p>4校で交流というのは6年生になればありますが、それほど機会はとれず、年1回程度だと思います。小規模校からの進学におけるギャップの話についてですが、単式学級の20名程度の児童が、中学校になると、6学級に分かれて入っていくこととなります。このため、1つの学校で毎日顔を合わせていたメンバーが、男女でいうと1クラスに1～2名程度しかいないということになりますので、スタートの部分で友達関係を創ることが難しいという状況が以前はありました。現在は、そのあたりを多少配慮されているということがあります。</p> |
| 委員 | <p>小学校6年生の後半の時期にふれあい活動というものを実施し、他校の児童と交流したり、中学校の先生が、英語とか数学など中学校で新たに始まる授業を小学校で出前授業をするなど、中1ギャップというものを少しでも解消する取り組みをしています。</p> <p>また、小・中学校の連携で、小学校1年生から中学校3年生までの家庭学習の手引きを作成しており、小学校6年生が中学校1年生の勉強を意識しながら家庭学習等に取り組めるような環境を整えていることも、ギャップの解消につながるものと考えています。</p> |
| 会長 | <p>ここで少しまとめたと思いますが、会長からの提案として、適正規模を標準規模というような形とし、目安のようなものをまとめたかどうかと思います。適正という、それからはずれば不適正なのかということになりますが、そういうことでもありませんので、標準規模ということでもまとめていきたいと考えます。</p> <p>そこで学級規模としては、国の12学級から18学級を標準とし、学級人数については、国の40人という編制ではなくて、鳥取県が実施している30人とか33人というあたり、あるいは中学校であれば30人台、小学校であれば20人から30人の間位ということが出ていましたので、これらをうまく標準に入れ込むことができないか検討していきたいと思います。</p> <p>通学距離についても、国の4kmと6kmを標準としますが、それを鳥取市の場合3kmと5kmということで検討しているということですので、それをかっこ書き等で入れていくことができるのかということだと思います。</p> <p>それ以外にも、自治会とのつながりや長期的な展望等をフィルターにかけて検討していこうと思います。</p> <p>最後に13ページにまとめてあります、小規模・大規模にかかるメリット・デメリットについては、期間を設定して追加や削除する内容を検討し、もう少しメリハリを付ければ使えそうですので、協議させていただきたいと思います。</p> <p>それから、少し議論を急ぐ必要があるのが、中学校の小規模校の問題だと感じていますのでよろしく願います。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 今の話ですと、必然的に学校再編の論議になってくるように感じますが、校区再編ということに正面から取り組むという認識でいいのでしょうか。 |
| 会長 | そのあたりについて、事務局より説明してください。 |
| 事務局 | 最終的には、そういう現実的な問題についても取り組んでいくことになるものと考えています。ただ、基本的な基準というものを明確にした上で、取り組むことが必要だと思いますので、前半はそうした基準づくりをお願いしたいと考えています。 その後の議論の中で、具体的なものを検討していくことになると思いますが、その時期が少し早まりそうな様子であるということだと思います。 |
| 委員 | 前回の岩倉・宮ノ下小学校では、学校統合ではなく校区の線引きの問題でしたが、今回は再編を念頭に置いた論議になるということですが、本当にそれでいいのですね。 |
| 会長 | 今言われた、両方が出てくるものと思います。今議論している標準に基づいて、校区によっては統合という場合もあれば、線の引き方を見直すという場合もあるものと思います。両方の可能性を含んで進んでいるものと考えています。 その他に何かありますか。 |
| 委員 | 政権が変わり、マニフェストにおいて国が主導してきた部分を地域へ降ろそうという動きがあります。今の情勢からいくと、この校区審議会を開催している5年間の大半は、現政権ということになりそうですので、鳥取市が独自に行えることが出てくるのではないかと思います。 例えば鳥取市独自に小学校6年生まで30人学級を続けるというようなことが、可能となることもあるかも知れませんが、そのあたりを事務局ではどのように捉えているか聞かせていただきたいと思います。 |
| 事務局 | 学級の定員を何人にするかということについては、国において40人という枠が定まっています。これを鳥取県が独自に小学校1・2年生、中学校1年生に小人数学級を実施するという施策を展開しています。これを実施しているのは、全国で鳥取県のみですが、委員が言われますように将来的には、鳥取市独自の施策を実施できるような時期も来るかもしれません。 その折には鳥取市の教育の進め方について別に議論する場が必要になるのではないかと思いますし、学級増につながるということになれば、財政的な問題も絡んできますので、難しい議論になると思います。 したがって、今は現実に即して未来志向の議論をしていただくことが、一番ありがたいと考えています。 |
| 会長 | 学級規模については、人口そのものが減少している鳥取県において、学級数を確保するために、規模を少し小さくして確保していくという策もあると思います。 あと通学距離の問題で、例えば鳥取では冬季に日暮れが早いとか積雪があるなどいろいろな問題があると思いますが、そうした季節によって補助対象となる距離が変わるというようなことはないのでしょうか。 |
| 事務局 | 基準としては統一したものを検討していますが、冬季だけ補助申請していただくというようなことも想定しています。例えば、夏の間は自転車を通い、冬はバスで通学するとした場合に、冬季だけ申請できるオプションのようなものは考えています。 |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>公共交通機関の問題についてですが、将来的にもバス路線を維持できるのだろうかという疑問があります。鳥取市から2億円程度、全体で3億円程度の補助金が出ているとお聞きしていますが、財政も逼迫する中、こうしたことが継続して実施できるのか問題だと思います。</p> <p>このため、スクールバスを確保しなければならない時代がくるのではないかという危惧を持っていますので、そうしたことも念頭に置いたうえで審議する必要があるのではないかと思います。</p> <p>そのあたりについて、交通対策室から資料を集めていただければありがたいと思います。</p> |
| 会長 | <p>今回は通学の問題を審議することになりますが、通学バスの確保については、単純に考えるとスクールバス専用で確保するという方法と、バス自体は持たずに通学用に借り上げるというものと、公共用のものを利用したり、オンデマンドで住民と一緒に利用するという方法があると思います。</p> <p>それぞれ試算をして、住民の足も同時に確保するという視点も含めて議論すると、意義のあることになると思います。</p> |
| 委員 | <p>交通機関で今打撃を受けているのが、米里地区です。米里では、日交バスの路線が廃止になることが、決まりました。10月から12月にかけてタクシーの代用について実証運行がされますが、その結果によっては、全く廃止になることも想定されます。そうすると小学生の通学に支障をきたしますので、市の生活交通会議にお願いしていますが、現実にはこういうことが起きているということを、知っておいていただきたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>関連してですが、新市や郡部の方では、公共交通機関が運行しているバス停から民家まで遠いというところがたくさんあります。</p> <p>智頭町においては、1小学校に統合ということで方向が固まりましたが、あそこは谷がたくさんあって、鳥取市の縮小版的なところがあります。いろいろな議論があつて結論に至ったと思いますので、参考にするため、智頭町の情勢について、適当な時期に当審議会に提供していただくようお願いしたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>基準の検討にあたっては、いろいろな要素が絡み合うので複雑になってきますが、教育委員会という立場で考える上では、教育効果と保護者の負担、子どもたちの安全ということが基になると思います。</p> <p>周りの条件もそれについてきますので、交通政策とも連携をとりながら検討を進めていくべきと考えますが、基本は教育効果と保護者負担、子どもの安全ということを第一にお願いしたいと思います。</p> |
| 会長 | <p>先行している智頭町・日南町などの情報を、提供していただくようお願いします。</p> |
| 委員 | <p>適正規模とするにも郊外の学校では距離の問題もあつて難しく、その場合に小中一貫校という考えが、現実的には出てくるのではないかと思います。そのあたりについて、行政としてはどのように考えていますか。</p> |
| 事務局 | <p>新しい学校の形態として、小中一貫校というのも選択肢の一つであると考えています。ただ前提として、行政の方から小中一貫校にしますということではなく、土台となる地域の方が小中一貫校を強く望まれ、バックアップ体制もできるということが、大きな要素になると思います。そうしたものを加味しながら、検討していくことになると思っています。</p> |

| | |
|-----|--|
| 会長 | <p>小学校と中学校が、縦につながるといものも一つのアイデアだと思います。標準を一律にかけてどうこうするというのではなく、地域や学校の方からいろいろなアイデアを出していただき、それをベースにいろいろな形態を考えていくということだと思います。</p> <p>それから資料の9・10ページのところで、湖南学園は今後の児童・生徒数の減少率があまり大きくないようですが、何か要因がありますか。</p> |
| 事務局 | <p>住民基本台帳上のデータで推計していますので、特に要因というものは分析していません。</p> |
| 会長 | <p>次回のテーマは通学についてですが、用意して欲しい資料があれば言ってください。</p> |
| 委員 | <p>各委員さんが、各校区の通学の実態をイメージしにくいのではないかと思います。校区ごとにどこまでが徒歩通学で、どこからがバス通学かということが分かるような資料が、工夫できないものかと思います。</p> |
| 会長 | <p>各校区の状況を示す図面は、ないのでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>現在、遠距離通学の補助を検討する上で収集している資料がありますので、これを何とか使えないか検討してみます。</p> |
| 委員 | <p>千代川の左岸と右岸に校区がまたがっているのは、倉田小学校区と城北小学校区だと思います。城北小学校区については、前回の審議会でも問題となりましたが、倉田小学校区についてはどのような認識を持っておられますか。</p> |
| 委員 | <p>もともとあった村が分村して、川を渡った地域の側に移ったという経緯があります。しかしながら川で分かれたからと言って、校区を変えるという話には当時ならなかったということだと思います。今でも分村前の地域同士の交流もありますし、校区を変えて欲しいという要望もなく、むしろ強い願いもあって、倉田小学校に来ているという状況にあります。</p> <p>ただし、今のところ分村する前の方々に住んでいらっしゃるというイメージになっていますが、ずっと先の世代になったときに、なんで向こうの校区にという話が出てこないとも限りません。</p> |
| 会長 | <p>橋をまたいでいる校区というような資料も、作成しておいてください。他にはどうでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>9年間同じメンバーで固定されることのデメリットがあるのかということを考えるうえで、1小学校1中学校のパターンのところと、いくつかの小学校が一つの中学校に行くということで分けた資料というものもほしいと思います。</p> <p>1小学校1中学校のパターンは合併前の町村域が多いと思いますが、児童生徒数が少なくなっており、市街地とは随分感覚が違うような気がしますので、そのあたりを検討してみてもと思います。</p> |
| 会長 | <p>1小学校1中学校のメリット・デメリット、小中連携した場合にカバーできる問題とできない問題、連携することによって山村留学のようなもので外から人を呼び込んでくるのが可能なのかというような視点で、検討することも必要かもしれません。</p> |
| 委員 | <p>湖南学園での、小中一貫校の成果も聞かせてほしいと思います。</p> |
| 委員 | <p>7ページに部活の資料がありますが、学校を超えて部活動をしているという事例はありますか。</p> |

| | |
|--------|---|
| 事務局 | <p>数は少ないですが、活動しているところはあります。</p> <p>大きい学校でも部員が少ない部活で、3校くらいが合同チームとして県の大会に出たという実績もあります。</p> |
| 会長 | <p>標準規模については、ある一定の時期までに各委員さんより意見を寄せていただき、それをもとに事務局の方でたたき案を作成し、次回の審議会で検討して決めていきたいと考えています。</p> |
| 事務局 | <p>確認ですが資料の13ページの表を基に、中学校と小学校別にメリット・デメリットの表を作成し、それを基に標準というものを決定していくというような手法でよろしいでしょうか。</p> |
| 会長 | <p>国のものをたたき台に、鳥取市版のメリット・デメリットの事例集を作り、それを基に標準を検討するというところでよろしいでしょうか。</p> |
| | <p>「意義なし。」の声あり。</p> |
| 会長 | <p>次回の日程ですが、今回は、12月11日金曜日、午前10時よりお願いしたいと思います。</p> <p>また、意見集約の期限は11月末までとしますので、事務局まで郵送・ファックス等どのような形でも結構ですので、皆さんの意見をお寄せください。</p> <p>また、事務局の方で、小中一貫校のこともまとめておいてください。</p> <p>アドバイザーより何かありますか。</p> |
| アドバイザー | <p>小中学校というのは、地域の拠点施設ですので様々な機能を持っています。教育委員会サイドから見れば教育の場でしょうが、学校がもし無くなった場合にも、そこに地域の求心力を持つような施設が必要になると思います。</p> <p>学校が様々な機能を併せ持つ中で、校区審議会においては何を優先順位に議論していくのかということが、諮問書では読み取れません。本日の議論の中である程度の共通認識が持てたものと思いますが、まず何を軸として議論していくかというものがあって、その補助線として例えば地域の自治会に配慮しながら進めるということがあれば、そうした機能についても補助的に検討していくということになります。そのあたりの優先順位をお示しただければ、議論がもっと深まるのではないかと思います。感想を持ちました。</p> <p>また、今までは小学校、中学校の別で議論がされがちだったのですが、本日は小中一貫したものとして、9年間トータルで変わらないところがあるという視点も出てきました。小中学校を連続したつながりとした視点で議論を見直せば、問題点も出てくるのではないかと思います。再点検を委員の皆様をお願いできたら、議論が深まるきっかけになるのではないかと感じました。</p> |
| 会長 | <p>小中一貫という場合、建物を一緒にした形もあれば、建物を別々にした連携という形もありますし、小中を6年・3年で区切るというやり方もあれば、4年・5年という形で組むこともできます。この様に一貫教育をする場合、あまり型にはめずに、いろいろなやり方ができると思います。</p> <p>それから学校の施設の使い方については、空き教室をどう開放するかという問題で、例えば高齢者福祉や社会教育に使うなど、年間通して空いている教室を地域でどう使っていくかという視点と、放課後とか土・日曜日の管理を市長部局に譲って、学校の利用を住民に返すというような視点で、全国的にはいろいろな試みがなされていると思います。</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>規模から外れた場合のメリット・デメリットをふまえつつ、それぞれの校区や学校がこんなアイデアで活性化したいとか、こんなアイデアで地域と学校の問題を新しい方向に持っていきたいというようなことが出てくるような間口の広さで、メッセージを投げかけられたらと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>他に何かありますか。</p> |
| 委員 | <p>鳥取市の住宅地というのは、これ以上広がらないのではないかと感じています。その中で、どのように住民が移動していくかということになるかと思っています。</p> <p>アドバイザーの報告で、中心市街地についてもまだそれほど人口が増えるという施策はないようですから、今後10年間の間に、空洞化がより進行するのではないかと思います。</p> <p>これから先は、データにもありますように、美保・美保南・城北・修立・稲葉山校区の、中心市街地より少し周辺の地域に人口が集中していくのではないかと思います。</p> |
| 会長 | <p>次回に向けて、事務局にもいろいろな宿題を出しましたが、可能な範囲でお願いできたらと思います。</p> <p>それでは、これで終了したいと思います。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p> |